

## 2. PTFE テープろ紙上の硫酸塩を用いた福岡市における高濃度現象の事例解析

環境科学課 山崎 誠

大気環境学会大9回年会

福岡市における煙霧の頻度は年々増加傾向にあり、煙霧時にはエアロゾルの硫酸塩濃度が増加する。高濃度の硫酸塩はSPMに影響を与えるとともに越境汚染の指標と見なされるため、SPM計のPTFE製ろ紙に捕集された硫酸塩を測定し、大気常時監視項目との関係を検討した。その結果、SPM計のろ紙を用いて硫酸塩の1時間値と日平均値の両方が測定可能な事、硫酸塩とSPMは非常に強い相関があったが、光化学オキシダントとの相関はそれより弱かった事、硫酸塩が高濃度になったときのSO<sub>2</sub>との比が時期によって異なり酸化反応の進行度の指標になる可能性が示唆された。

次に1時間値を用いて高濃度事例解析に適用を試みた。その結果、SPMとの変動傾向は煙霧の時はよく一致するが、黄砂の時は一致せず、光化学オキシダント高濃度の時の一致度は限定的であった。